

近江八幡市地域公共交通活性化協議会

平成20年4月30日設置
平成20年8月29日連携計画策定



概要

近年のモータリゼーションの進展や少子化に伴う人口の減少などにより、市内のバス路線の運行が厳しい現状を迎えている。また、市内には公共交通利用空白地区も存在しており、特に交通弱者等への対応が大きな課題となっており、生活のための移動手段を維持、確保するために近江八幡市内の新たな公共交通の整備として、市民バス(コミュニティーバス)の実証実験を実施した。また、市街地中心部において近年マイカー観光客が急増し、交通渋滞が発生することからパークアンドバスライドの実験を開始した。

○コミュニティバス(あかこんバス)の運行

人口は市内全域に広く分布し、公共交通利用空白地域も多数散在していることから、交通空白地の解消をはじめ将来に向けた超高齢社会への移動交通サービスの確保に向け、市民バス(あかこんバス)10コースの実証実験を開始した。このことにより、おおむね交通空白地の解消が図れた。

○マイカー観光客対応パークアンドバスライド実験の実施

バス利用への転換を目的とした「駐車場」を設置し、市中心部への自動車流入軽減、観光客への市中心部の自動車回遊の軽減、バス利用促進等を図る実験の実施。

○公共交通利用促進・環境意識醸成フォーラムの開催(予定)

市民に対して、公共交通利用を促進するため、公共交通サービスレベルを高めるだけでなく、自動車に過度に依存している市民意識を自分達の公共交通という意識に変えることが必要不可欠です。そこで、意識啓発のために、公共交通利用促進に資するフォーラムを開催する。

